

会議用システム

TS-770 シリーズ

TS-770 (センター装置)

TS-771 (議長ユニット)

TS-772 (参加者ユニット)

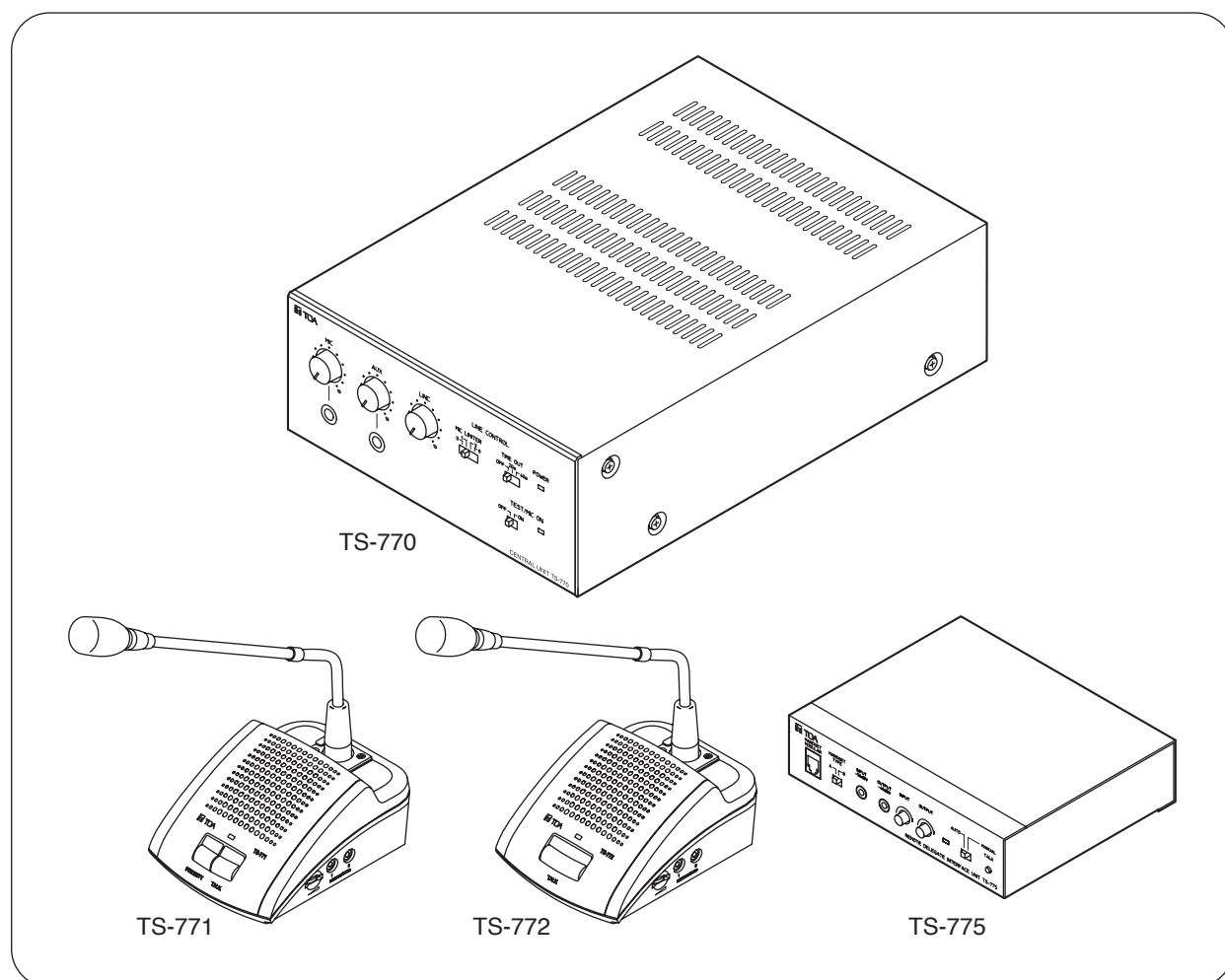
TS-773 (標準マイクロホン)

TS-774 (ロングマイクロホン)

TS-775 (リモート参加者インターフェースユニット)

YR-770-2M (延長コード 2 m)

YR-770-10M (延長コード 10 m)



このたびは、TOA 会議用システムをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

正しくご使用いただくために、必ずこの取扱説明書をお読みにになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

目 次

安全上のご注意	3
概 要	6
特 長	6
各部の名称とはたらき	
センター装置 TS-770	7
議長ユニット TS-771、参加者ユニット TS-772	9
リモート参加者インターフェースユニット TS-775	11
議長・参加者ユニットの操作のしかた	
発言のしかた	12
優先発言のしかた（議長ユニット TS-771 のみ）	13
遠隔地間会議のしかた	
遠隔地間会議を始める時の手順	14
AUTO 設定時の操作のしかた	14
MANUAL 設定時の操作のしかた	15
設定の組み合わせ使用例	15
機能設定のしかた	
発言者数制限機能	
設定のしかた	16
発言者数の制限と各会議ユニットでの動作	16
マイクオートオフ機能	17
一斉マイクオン機能	17
録音のしかた	
センター装置 TS-770 で録音する場合	18
議長ユニット TS-771 または参加者ユニット TS-772 で録音する場合	18
接続・設置のしかた	
接続例	19
設置の手順	20
基本的なシステムの設置・調節のしかた	
センター装置と議長・参加者ユニットを接続する	21
機能の設定と議長・参加者ユニットの音量調節	22
センター装置を複数台使用するとき	25
遠隔地間会議をするとき	26
ブロックダイヤグラム	
センター装置 TS-770	29
議長ユニット TS-771	29
参加者ユニット TS-772	30
リモート参加者インターフェースユニット TS-775	30
仕 様	
センター装置 TS-770	31
議長ユニット TS-771、参加者ユニット TS-772	31
標準マイクロホン TS-773、ロングマイクロホン TS-774	32
リモート参加者インターフェースユニット TS-775	32
延長コード 2 m YR-770-2M、延長コード 10 m YR-770-10M	32

安全上のご注意

- ご使用の前に、この欄を必ずお読みになり正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、いつでも見られる所に必ず保存してください。

表示について

ここでは、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

図記号について

行為を禁止する記号			行為を強制する記号	
				
分解禁止	禁 止	接触禁止	強 制	電源プラグを抜く



警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

水にぬらさない

本機に水が入ったりしないよう、また、ぬらさないようにご注意ください。
火災・感電の原因となります。



禁 止

指定外の電源電圧で使用しない (TS-770 のみに適用)

表示された電源電圧を超えた電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。



禁 止

電源コードを傷つけない (TS-770 のみに適用)

電源コードを傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたりしないでください。
また、コードの上に重いものをのせないでください。
火災・感電の原因となります。



禁 止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。



禁 止

屋外に設置しない

本機は、屋内専用品です。
屋外に設置すると、部品の劣化により、機器が落下して、けがの原因となります。
また、雨などがかかると、感電の原因となります。



禁 止



誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

使用するとき

万一、異常が起きたら

次の場合、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 煙が出ている、変なにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ったとき
- 落としたり、ケースを破損したとき
- 電源コードが傷んだとき（心線の露出、断線など）（TS-770 のみに適用）
- 音が出ないとき



電源プラグ
を抜け

内部を開けない、改造しない

内部には電圧の高い部分があり、ケースを開けたり、改造したりすると、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。



分解禁止

液体の入った容器や小さな金属物を上に置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。



禁止

内部に異物を入れない

本機の通風口などから内部に金属類や燃えやすいものなど、異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。



禁止

雷が鳴ったらさわらない（TS-770 のみに適用）

雷が鳴り出したら、電源プラグにはさわらないでください。
感電の原因となります。



接触禁止

注意

誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容
および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

ぬれた手で電源プラグをさわらない (TS-770 のみに適用)

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。



禁 止

電源コードを引っ張らない (TS-770 のみに適用)

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。



禁 止

移動させるときは電源プラグを抜く (TS-770 のみに適用)

差し込んだまま移動させるとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



電源プラグ
を抜け

通風口をふさがない (TS-770 のみに適用)

通風口をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



禁 止

湿気やほこりの多い場所などに置かない

湿気やほこりの多い場所、直射日光のあたる場所や熱器具の近く、油煙や湯気のあたるような場所に置かないでください。
火災・感電の原因となることがあります。



禁 止

使用するとき

定期的に内部の掃除をする (TS-770 のみに適用)

内部の掃除については、販売店にご相談ください。
内部にほこりがたまったまま長い間掃除をしないと、火災の原因となることがあります。



強 制

電源プラグやコンセント部の掃除をする (TS-770 のみに適用)

電源プラグを差し込んでいるコンセント部にほこりがたまると、火災の原因となることがあります。定期的にコンセント部の掃除をしてください。
また、電源プラグは根元まで差し込んでください。



強 制

お手入れの際、長期間使用しない場合の注意

(TS-770 のみに適用)

お手入れのときや長期間本機をご使用にならないときは、安全のため電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
守らないと、感電・火災の原因となることがあります。



電源プラグ
を抜け

概 要

設置、収納が簡単に行える会議システムです。

センター装置 TS-770 と会議ユニット*を接続するだけで設置できます。

リモート参加者インターフェースユニットを使用すれば、遠隔地にいる相手を会議に参加させることができます。

* 下記3機種の総称

議長ユニット TS-771、参加者ユニット TS-772、リモート参加者インターフェースユニット TS-775

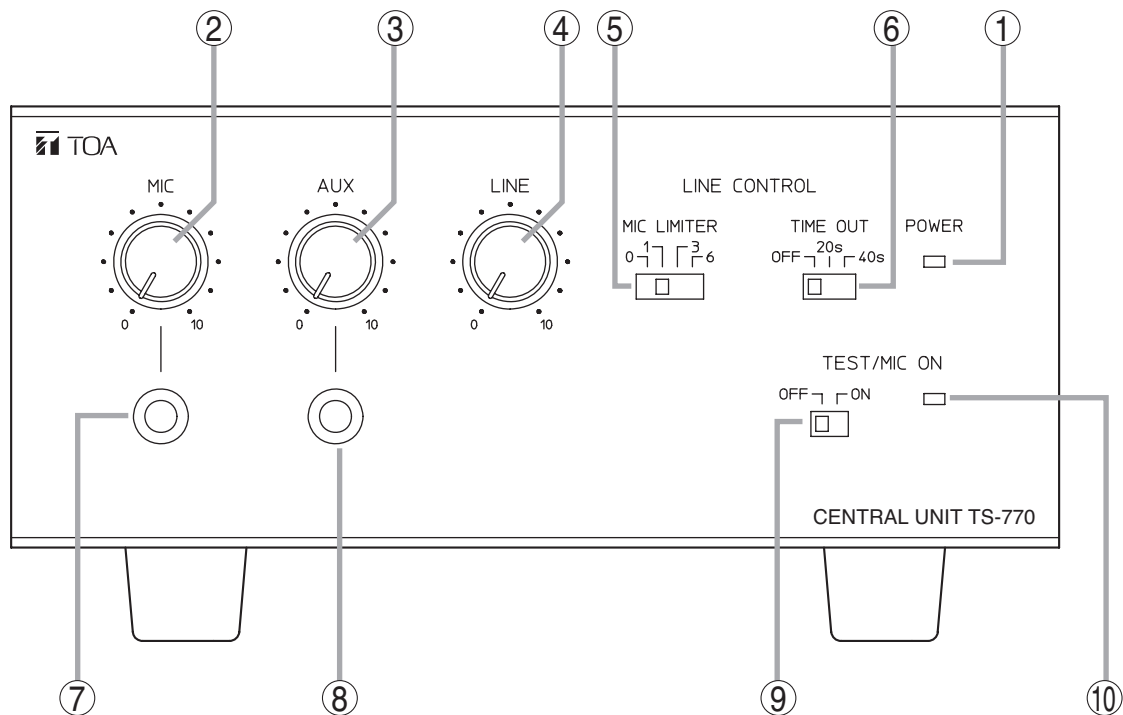
特 長

- センター装置と議長・参加者ユニットを接続するだけで、会議の音声を拡声できます。
- リモート参加者インターフェースユニットを接続すれば、電話機やパソコンを利用した遠隔地間会議ができます。
- センター装置1台につき会議ユニットが70台まで接続できます。(1ライン35台×2ライン)
- センター装置は最大3台、会議ユニットは最大210台接続できます。
- 2mと10mの延長コード(別売)を用意していますので、使用場所に合わせて配線できます。
- 議長ユニット TS-771 と参加者ユニット TS-772 は、標準マイクロホン TS-773 またはロングマイクロホン TS-774 を選択できます。
- 議長・参加者ユニットのマイクロホンは取り外しができますので、省スペースで収納できます。
- テスト機能により、会議ユニットの接続状況を簡単に確認できます。
- 発言者数限定機能により、同時に発言できる参加者ユニットの数を制限できます。(0、1、3、6が設定可能)
- マイクロホンを切り忘れても、発言後、一定時間が経過すれば自動的にマイクロホンをオフにする、マイクオートオフ機能が設定できます。(OFF、20秒、40秒が設定可能)
- 交互録音カセットデッキ AR-72 (別売品) を接続して、会議の内容を録音することができます。
- 一斉マイクオン機能を使用すると、発言キーの操作なしで会議ができます。(会議録音専用機能)

各部の名称とはたらき

■ センター装置 TS-770

[前面]



1. 電源表示灯 [POWER]

後面の電源スイッチ（11）を入れると、点灯します。

2. マイク音量つまみ [MIC]

マイク入力端子（7）に接続したマイクロホンの音量を調節します。

3. 予備入力音量つまみ [AUX]

予備入力端子（8）に接続した機器の音量を調節します。

4. ライン音量つまみ [LINE]

会議ユニットのスピーカーの音量を調節します。

5. 発言者数設定スイッチ [MIC LIMITER]

同時に発言できる参加者ユニットの台数を設定します。

6. マイクオートオフ設定スイッチ [TIME OUT]

会議ユニットでの発言後、自動的にマイクロホンが切れるように設定できます。

7. マイク入力端子 [MIC]

マイクロホンを接続します。
(600 Ω 、-60 dB*、不平衡)

8. 予備入力端子 [AUX]

CDデッキ、カセットデッキなどを接続します。
(10 k Ω 、-20 dB*、不平衡)

9. テスト／一斉マイクオン兼用スイッチ [TEST/MIC ON]

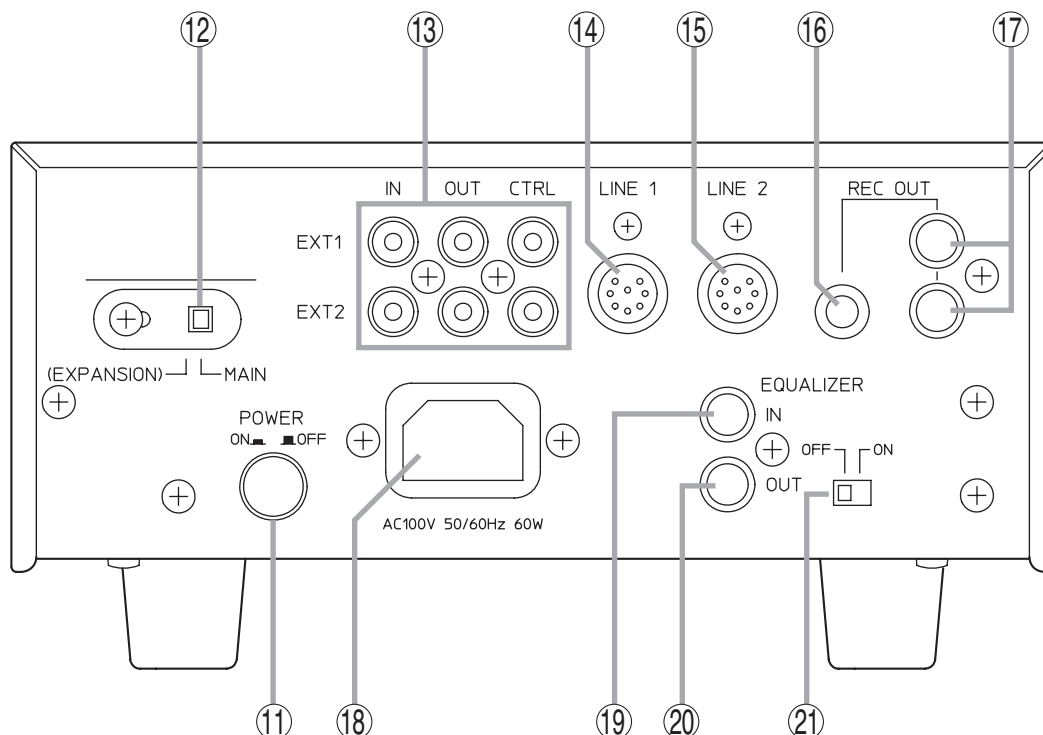
ON側にすると、すべての会議ユニットのマイクロホンがオンになります。
設置時のテスト用途と、すべての会議ユニットから自由に発言できる会議の用途を兼ねています。

10. テスト／一斉マイクオン表示灯

テスト／一斉マイクオン兼用スイッチをON側にすると点灯します。

* 0 dB = 1 V

[後面]



11. 電源スイッチ [POWER]

押すと電源が入り、もう一度押すと電源が切れます。

12. 増設切換スイッチ [EXPANSION/MAIN]

センター装置を増設する時に切り換えるスイッチです。(ロック機構付き)
増設するときはEXPANSION側にします。

13. 増設用入出力端子 [EXT 1/2]

センター装置を増設する時に接続する端子です。

14. ライン1 接続端子 [LINE 1]

会議ユニットを接続します。35台まで接続できます。

15. ライン2 接続端子 [LINE 2]

会議ユニットを接続します。35台まで接続できます。

16. 録音出力端子 [REC OUT] (ホーンジャック)

交互録音カセットデッキAR-72などを接続します。
(10 k Ω 、-20 dB*、不平衡)

17. 録音出力端子 [REC OUT] (ピンジャック)

録音機器を接続します。
(10 k Ω 、-20 dB*、不平衡)

18. AC インレット

付属の電源コードを接続します。

19. イコライザー・インサーション入力端子 [EQUALIZER IN]

イコライザーの出力端子と接続します。
(10 k Ω 、-20 dB*、不平衡)

20. イコライザー・インサーション出力端子 [EQUALIZER OUT]

イコライザーの入力端子と接続します。
(10 k Ω 、-20 dB*、不平衡)

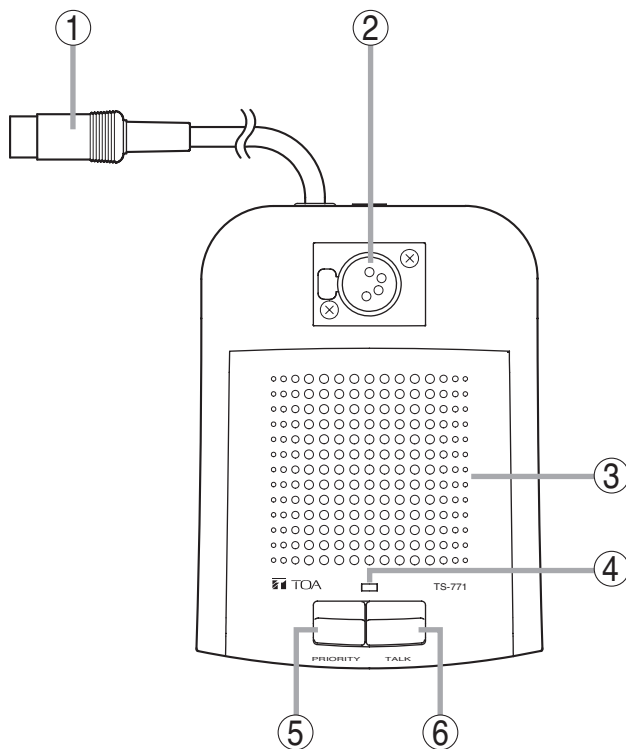
21. イコライザー・インサーション・スイッチ [EQUALIZER ON/OFF]

イコライザーを使用する時にON側にします。

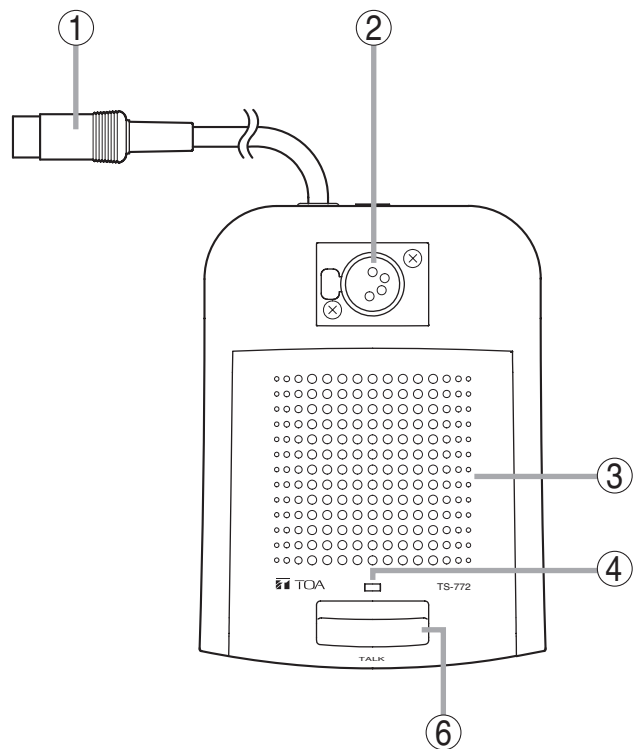
* 0 dB = 1 V

■ 議長ユニット TS-771、参加者ユニット TS-772

[TS-771 上面]



[TS-772 上面]



1. ライン接続コード

センター装置または直前の会議ユニットのライン接続端子に接続します。

2. マイク接続コネクター

標準マイクロホン TS-773 またはロングマイクロホン TS-774 を接続します。

3. スピーカー

他の発言者の音声が増幅されます。
音量は、センター装置 TS-770 のライン音量つまみで調節します。
このユニットでの発言中は、スピーカーから音は出ません。

4. マイク表示灯

発言可能ときに点灯します。

5. 優先キー [PRIORITY] (TS-771 のみ)

キーを押している間、マイク表示灯が点灯し、発言できます。このとき、他の会議ユニットからは発言できません。

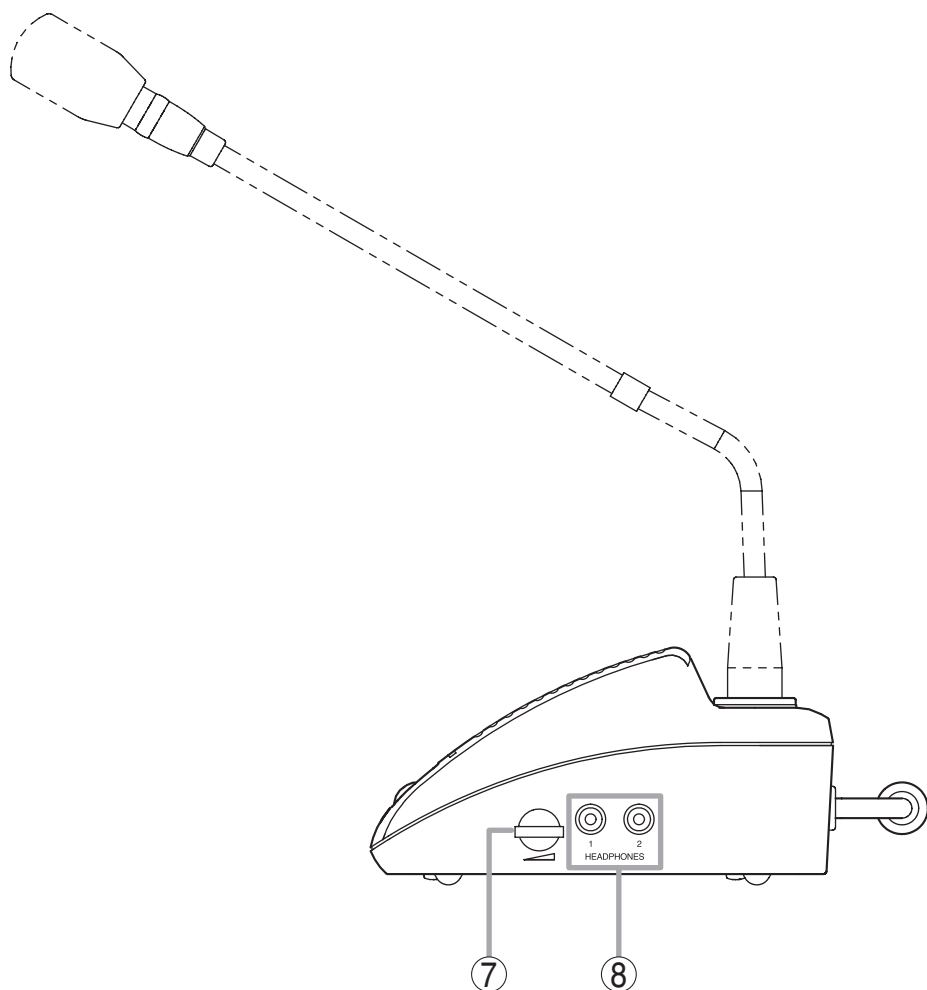
キーを押すと、他の会議ユニットのスピーカーから1音チャイムが鳴ります。

6. 発言キー [TALK]

キーを押すと、マイク表示灯が点灯し、発言できます。

再度押すと、マイク表示灯が消灯し、マイクロホンが切れます。

[TS-771/772 側面]



7. 音量調節器

録音／ヘッドホン出力の音量を調節します。

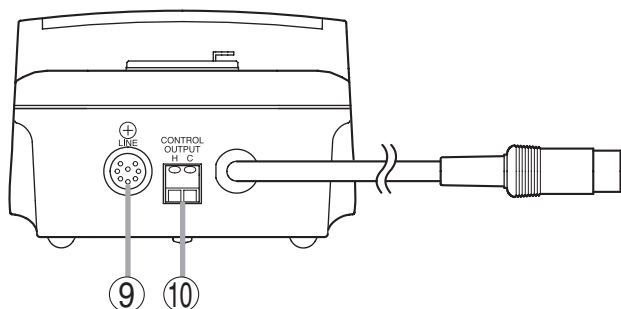
※ 内蔵スピーカー（3）からの音量は、センター装置 TS-770 の音量つまみで調節します。

8. 録音／ヘッドホン出力端子 [HEADPHONES]

録音機器またはヘッドホンを接続します。

使用中は、内蔵スピーカー（3）からの音は出なくなります。

[TS-771/772 後面]



9. ライン接続端子 [LINE]

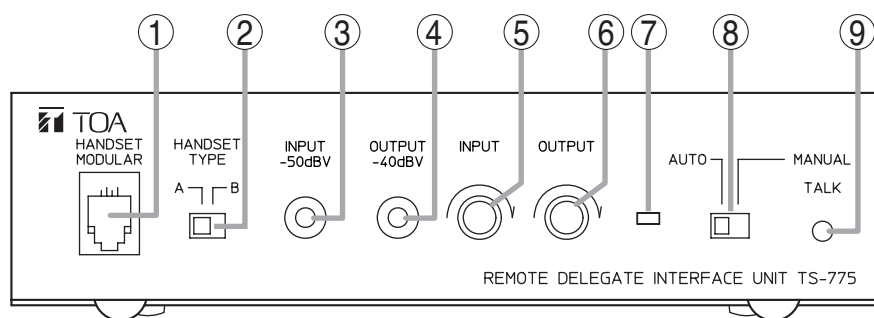
次の会議ユニットのライン接続コードを接続します。

10. 制御出力端子 [CONTROL OUTPUT]

マイク表示灯と連動し、発言可能なときにオープンコレクターの出力がオンになります。
(DC24 V、最大 50 mA)

■ リモート参加者インターフェースユニット TS-775

[前面]



1. ハンドセットモジュラー接続端子

[HANDSET MODULAR]

モジュラー付きハンドセットの電話機を接続します。

※ 電話機のハンドセットを取り外し、代わりにこのユニットを接続します。

2. ハンドセットタイプ切換スイッチ

[HANDSET TYPE]

ハンドセットの種類により切り換えます。

3. マイク入力端子 [INPUT -50 dBV]

パソコンのヘッドホン出力に接続します。

4. スピーカー出力端子 [OUTPUT -40 dBV]

パソコンのマイク入力に接続します。

5. マイク入力音量つまみ [INPUT]

マイク入力の音量を調節します。

6. スピーカー出力音量つまみ [OUTPUT]

スピーカー出力の音量を調節します。

7. 発言表示灯

発言状態のときに点灯します。

8. 自動/手動切換スイッチ [AUTO/MANUAL]

AUTO 側にすると、発言キーの操作をしなくても発言できます。

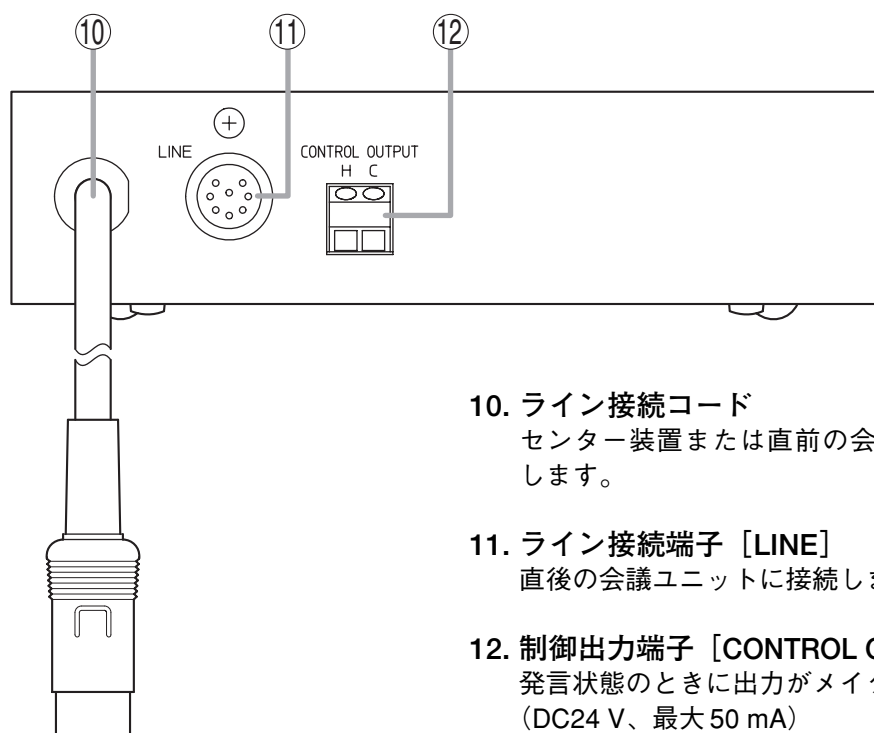
MANUAL 側にすると、発言キーの操作によって発言できるようになります。

9. 発言キー [TALK]

自動/手動切換スイッチを MANUAL に設定しているときに発言状態にするキーです。

一度押すと発言状態になり、もう一度押すと発言状態が解除されます。

[後面]



10. ライン接続コード

センター装置または直前の会議ユニットに接続します。

11. ライン接続端子 [LINE]

直後の会議ユニットに接続します。

12. 制御出力端子 [CONTROL OUTPUT]

発言状態のときに出力がメイクします。
(DC24 V、最大 50 mA)

議長・参加者ユニットの操作のしかた

※ 一斉マイクオン機能*がOFF（工場出荷時の設定）に設定されているときの操作のしかたです。
一斉マイクオン機能がONに設定されているときは、何も操作しなくても、いつでも、どの会議ユニットからでも発言できます。

* この機能のON/OFF 設定は、センター装置 TS-770 のテスト／一斉マイクオン兼用スイッチで行います。
（ P. 17）

■ 発言のしかた

1 発言キー（TALK）を一度押す。

マイク表示灯が点灯し、マイクロホンがオンとなります。

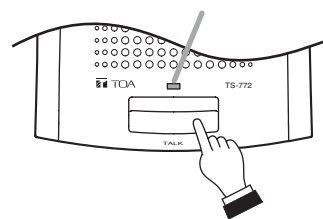
※ マイク表示灯が点灯している間、操作ユニットのスピーカーから音声は出ません。ただし、録音／ヘッドホン出力端子からの音声信号は出力されます。

ご注意

- 議長ユニットで優先発言中（ 次ページ）は発言キーを押してもマイクロホンがオンになりません。
- 参加者ユニット TS-772 の場合、発言者数の制限（ P. 16）により、発言キーを押してもマイクロホンがオンにならないことがあります。

[参加者ユニット TS-772 の例]

マイク表示灯：点灯



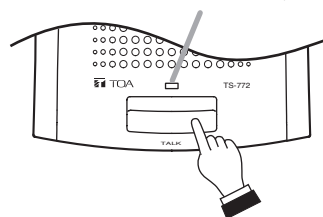
2 発言する。



3 発言が終わったら、再度、発言キー（TALK）を押す。

マイク表示灯が消灯し、操作ユニットのスピーカーから音が出るようになります。

マイク表示灯：消灯



■ 優先発言のしかた（議長ユニット TS-771 のみ）

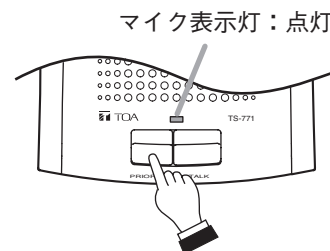
議長ユニット TS-771 のみ、他の発言者の発言中であっても、優先キーを押し続けることにより、優先的に発言することができます。

1 優先キー（PRIORITY）を押す。

マイク表示灯が点灯し、マイクロホンがオンとなります。

また、キーを押したとき、他の会議ユニットでは1音チャイムが鳴ります。

※ マイク表示灯が点灯している間、操作ユニットのスピーカーから音声は出ません。ただし、録音／ヘッドホン出力端子からの音声信号は出力されます。



2 優先キーを押したまま発言する。

優先キーを押している間、参加者ユニットからは発言できません。



3 発言が終わったら、優先キー（PRIORITY）を離す。

マイク表示灯が消灯し、操作ユニットのスピーカーから音が出るようになります。



ご注意

- 議長ユニットを複数台接続したシステムの場合、優先発言中であっても、他の議長ユニットで優先キーを押せば発言ができます。ただし、このとき1音チャイムは鳴りません。
- 優先発言により発言を中断された場合、優先発言が終わっても、発言可能となりません。もう一度発言キーを押し、マイク表示灯を点灯させてから発言してください。
- AUTO設定のリモート参加者インターフェースユニットでの発言中に優先キーを押した場合、議長ユニットからの発言はできますが、リモート参加者インターフェースユニットでの発言を中断させることはできません。

遠隔地間会議のしかた

参加者ユニットの代わりにリモート参加者インターフェースユニット TS-775 を使用すると、遠隔地にいる人も、電話機またはパソコンを介して、会議に参加できます。

■ 遠隔地間会議を始めるときの手順

- 1 会議室の電話機またはパソコンと遠隔地の電話機またはパソコンを通話状態にし、会議室の電話機またはパソコンをリモート参加者インターフェースユニット TS-775 に接続する。

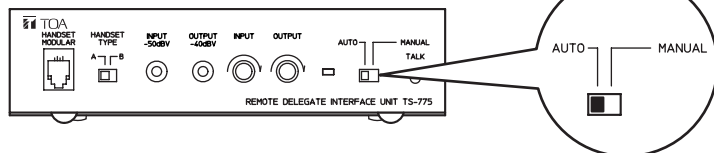
詳しくは P. 26 をお読みください。

- 2 会議に合わせて、リモート参加者インターフェースユニット TS-775 の自動／手動切換スイッチを設定する。

自動／手動切換スイッチの設定により、発言状態にする操作のしかたが異なります。

ただし、センター装置 TS-770 の一斉マイクオン機能が ON に設定されているときは、何も操作しなくても、いつでも、どの会議ユニットからでも発言できます。

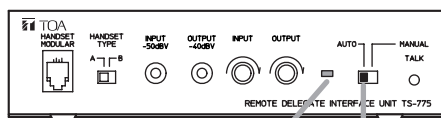
リモート参加者インターフェースユニット
TS-775



自動／手動切換スイッチ
(工場出荷時：AUTO)

■ AUTO 設定時の操作のしかた

[会議室] リモート参加者インターフェースユニット
TS-775



AUTO に設定
発言表示灯が点灯します。

[遠隔地]



だれも発言していないときに話す。

だれも発言していないときに話すと、話者の音声信号を検出して、自動的に発言状態（発言表示灯が点灯）になります。

話し終わると発言状態が解除（発言表示灯が消灯）されます。

発言者数の制限（P. 16）に関係なく、だれも話していない状態であれば、話者の音声信号を検出して発言状態になります。

発言中は議長の優先キー（前ページ）を押しても、リモート参加者インターフェースユニットでの発言状態は解除されません。

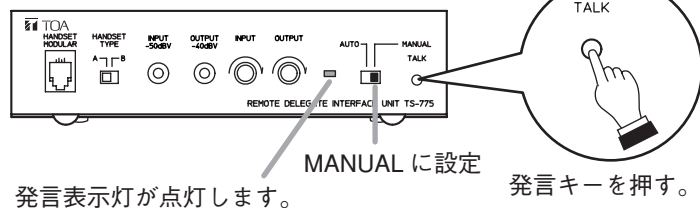
ご注意

1人でも発言しているときは、このユニットからは発言できません。

MANUAL 設定時の操作のしかた

[会議室]

リモート参加者インターフェースユニット
TS-775



発言表示灯が点灯します。

発言キーを押す。

[遠隔地]



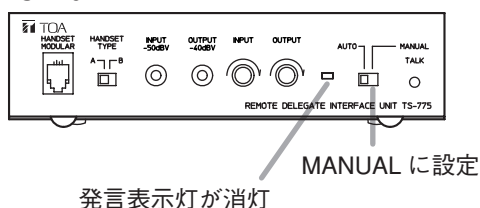
発言キーがオンのときに話す。

リモート参加者インターフェースユニットTS-775の発言キーを一度押すと、発言状態になります。
発言キーをもう一度押すと、発言状態が解除されます。
会議室側（例えば議長）が発言を制限するときに使用します。
この設定の場合は、発言者数の制限（ P. 16）が有効となります。

設定の組み合わせ使用例

- 1 遠隔地の参加者が発言できないようにしたいときは、MANUAL 設定にして発言表示灯を消灯状態にしておく。

[会議室] リモート参加者インターフェースユニット
TS-775



発言表示灯が消灯

MANUAL に設定

[遠隔地]

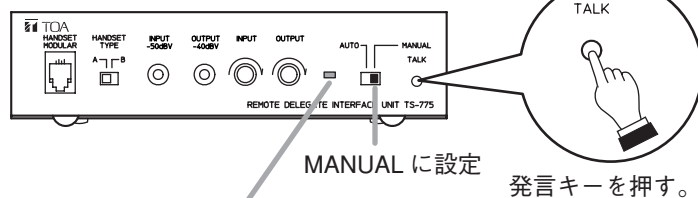


発言できない。

- 2 発言を求めるときは、発言キーを押して発言状態にする、または AUTO 設定に変更していつでも発言できるようにする。
状況に応じて選択してください。

[会議室]

TS-775

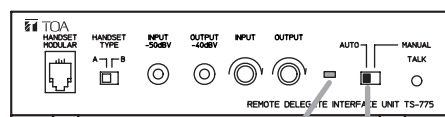


MANUAL に設定

発言キーを押す。

発言キーを押すと、発言表示灯が点灯します。

または



AUTO に変更

遠隔地の参加者が発言すると、発言表示灯が点灯します。

[遠隔地]



発言する。

機能設定のしかた

■ 発言者数制限機能

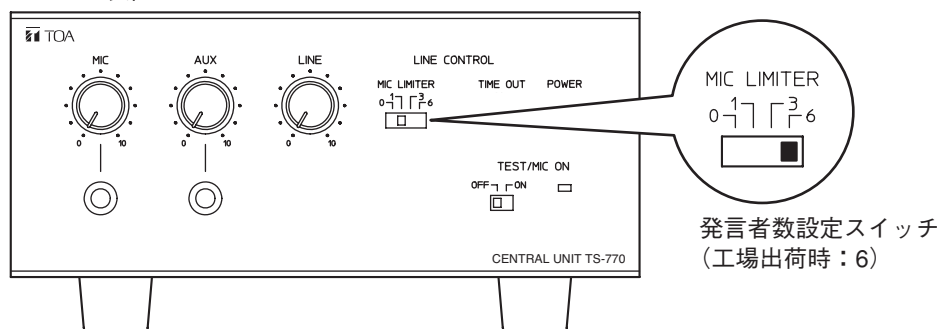
● 設定のしかた

センター装置 TS-770 の発言者数設定スイッチによって、同時に発言できる参加者ユニット TS-772 の台数を設定します。

会議にあわせて 0、1、3、6 のいずれかの位置に設定してください。

「0」設定は、参加者ユニットが発言できない設定です。（議長優先モード）

センター装置 TS-770



ご注意

センター装置を複数台使用するときは、センター装置ごとに異なる設定で使用することはできません。増設切換スイッチを MAIN 側に設定したセンター装置の設定が有効になります。

● 発言者数の制限と各会議ユニットでの動作

発言者数の制限と各会議ユニットでの発言可否との関係は、次のようになります。

[議長ユニット TS-771]

発言者数の制限とは無関係に、常時発言することができます。

[参加者ユニット TS-772]

設定された台数までの参加者ユニットで同時に発言できます。

設定された台数の参加者ユニットで発言中（マイクロホンがオン）のときには、ほかの参加者ユニットの発言キーを押しても、マイクロホンがオンになりません。

[リモート参加者インターフェースユニット TS-775]

自動／手動切換スイッチの設定により、発言できるタイミングが異なります。

AUTO 設定時 : 発言者数の制限に関係なく、他の会議ユニットで発言していないときのみ発言できます。

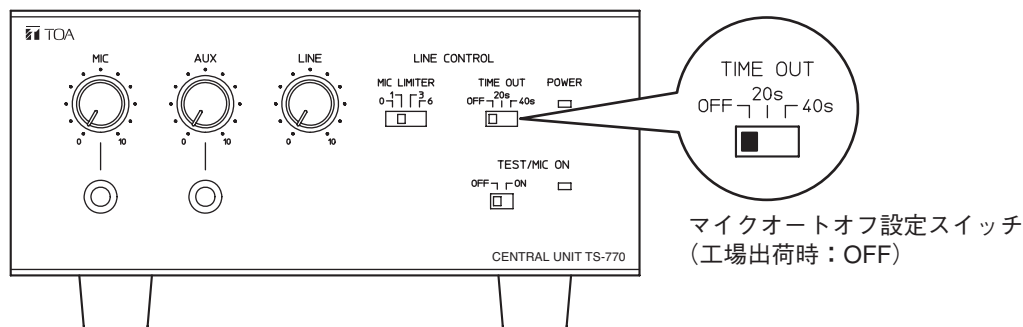
MANUAL 設定時 : リモート参加者インターフェースユニットも参加者ユニットの 1 つと見なします。

リモート参加者インターフェースユニットと参加者ユニットを合わせて、設定された台数まで、同時に発言できます。

■ マイクオートオフ機能

センター装置 TS-770 のマイクオートオフ設定スイッチによって、マイクオートオフの機能を設定することができます。一定時間、発言がないと発言終了とみなし、自動的にマイクロホンをオフにする機能です。発言後にマイクロホンを切り忘れても、設定した時間が経過すればマイクロホンがオフになります。自動的にマイクロホンをオフにするまでの時間は、20 秒（20s の位置）、40 秒（40s の位置）のいずれかに設定できます。この機能を使用しない場合は、OFF の位置に設定してください。

センター装置 TS-770



ご注意

- マイクオートオフ機能を使用した場合、発言中に設定時間以上の無音時間があると、マイクロホンがオフになってしまいます。発言中に長い無音時間があるような会議の場合、マイクオートオフ設定スイッチを OFF の位置に設定してください。
- 周囲の暗騒音の大きい所では、騒音を発言とみなし、マイクオートオフ機能が働かない場合があります。このような場合には、マイクオートオフ設定スイッチを OFF の位置に設定し、マイクオートオフ機能を使用しないでください。
- センター装置を複数台使用するときは、センター装置ごとに異なる設定で使用することはできません。すべてのセンター装置の設定を同じにしてください。

■ 一斉マイクオン機能

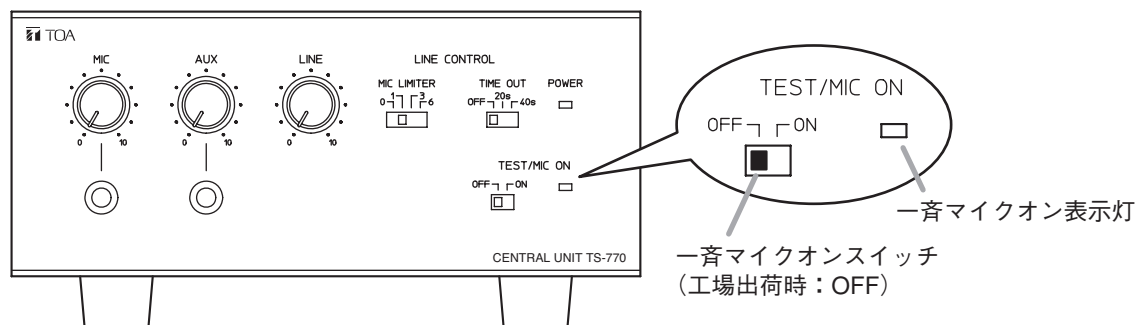
センター装置 TS-770 の一斉マイクオンスイッチによって、一斉マイクオン機能を設定することができます。一斉マイクオンスイッチを ON に設定すると、すべての会議ユニットのマイクロホンがオンになります。このとき、議長・参加者ユニットのスピーカーから音は出ません。録音／ヘッドホン出力端子からの音声信号は出力されます。

発言者数制限の設定に関係なく、すべての会議ユニットから、発言キーの操作なしで、いつでも発言できます。

少人数の会議を録音したいとき、他の場所へ放送したいときなどに便利です。

※ 一斉マイクオン機能の使用時に、リモート参加者インターフェースユニット TS-775 を使用して発言させたいときは、そのユニットの自動／手動切換スイッチを MANUAL に設定してください。AUTO に設定すると発言できません。

センター装置 TS-770



録音のしかた

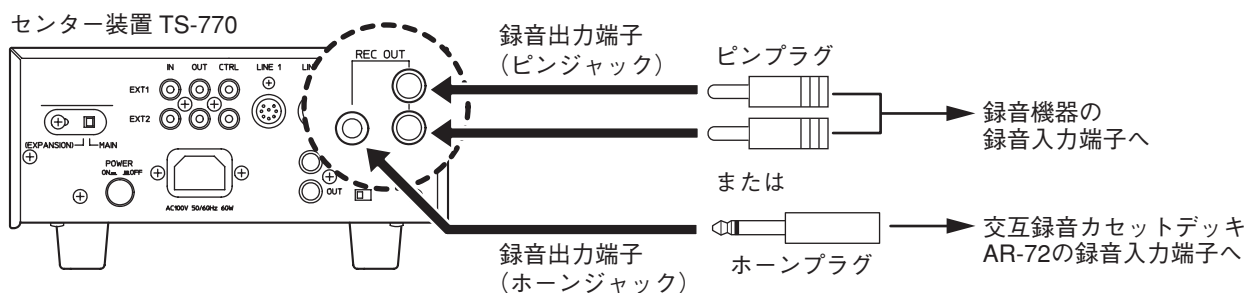
センター装置 TS-770、議長ユニット TS-771、または参加者ユニット TS-772 に交互録音カセットデッキ AR-72 などの録音機器を接続して、会議の内容を録音することができます。

■ センター装置 TS-770 で録音する場合

- 1 センター装置 TS-770 後面の録音出力端子と、録音機器の録音入力端子を接続する。
録音出力端子はホンジャックとピンジャックの2種類あります。接続する機器に合わせて、どちらかを使用してください。

ご注意

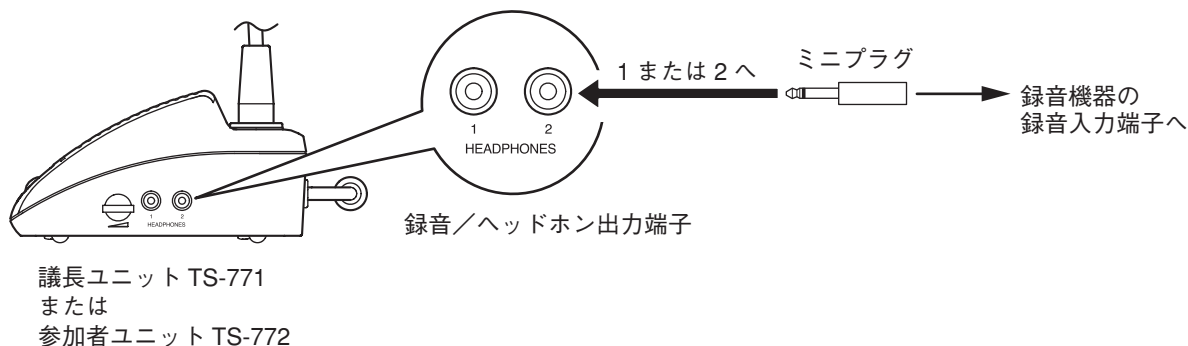
接続コードは別途、用意してください。



- 2 録音機器のモニター出力にヘッドホン接続し、会議の内容が録音されていることを確認する。
録音機器に、録音レベルの調節器がついている場合には、適当なレベルになるよう、調節してください。
録音機器の使いかたは、録音機器に付属している取扱説明書をお読みください。

■ 議長ユニット TS-771 または参加者ユニット TS-772 で録音する場合

側面の録音／ヘッドホン出力端子を使用して、センター装置の場合と同様に録音することができます。



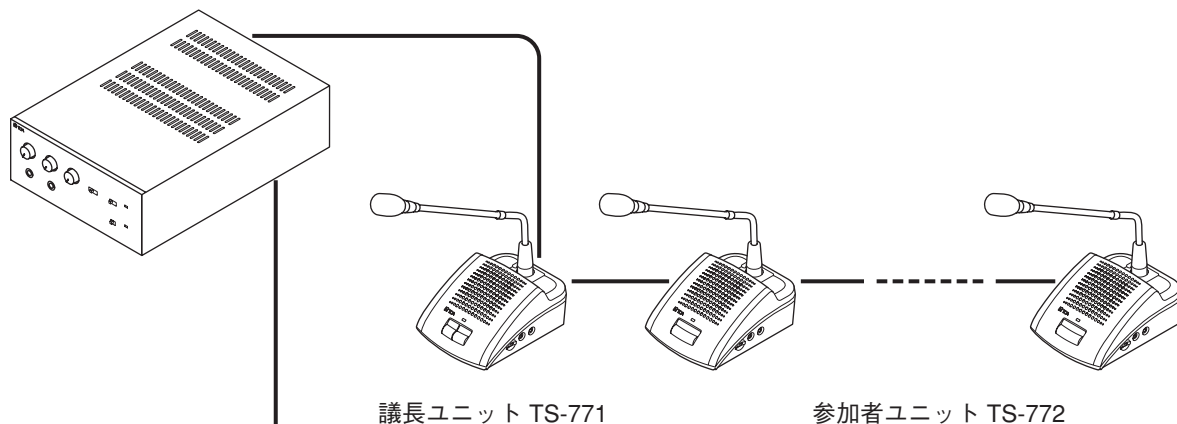
ご注意

- 録音／ヘッドホン出力端子の1、2いずれかを使用すると、そのユニットのスピーカーから音は出ません。
- 議長・参加者ユニットの録音出力は、センター装置のライン音量つまみの調節によって音量が変わります。センター装置のライン音量つまみを最小にすると、議長・参加者ユニットの録音出力からは録音できません。議長・参加者ユニットのスピーカーから拡声したくない場合に、会議の内容を録音したいときは、センター装置の録音出力端子を使用してください。

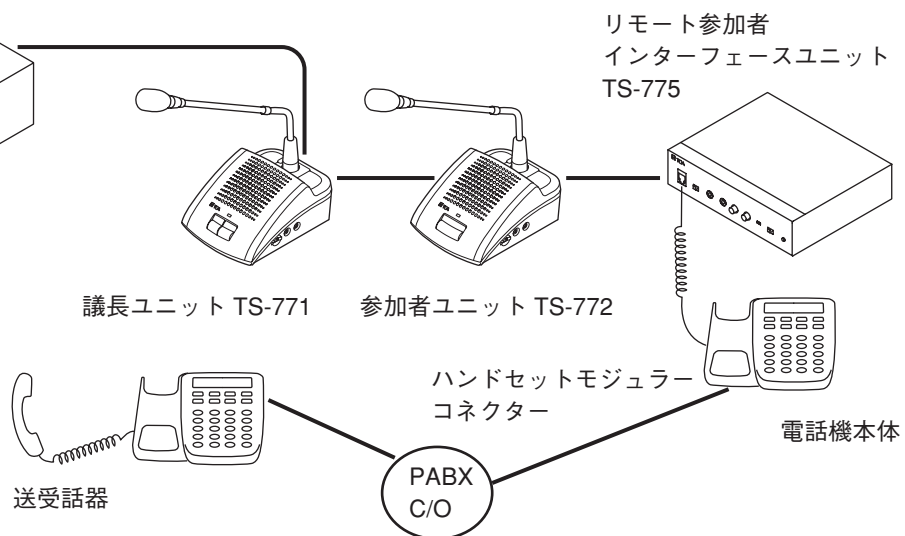
接続・設置のしかた

■ 接続例

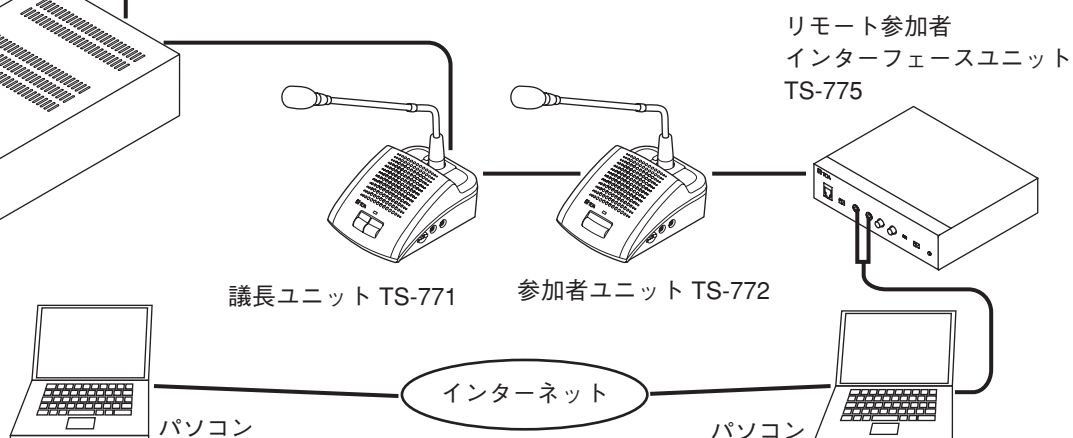
センター装置 TS-770



センター装置 TS-770



センター装置 TS-770



■ 設置の手順

基本的なシステムの設置

(センター装置 1 台、会議ユニット最大 70 台)

1. センター装置と会議ユニットを接続する。(Ⅱ P. 21)

2. センター装置での機能設定、議長・参加者ユニットの音量調節などをする。(Ⅱ P. 22)

センター装置を複数台使用するとき

(センター装置最大 3 台、会議ユニット最大 210 台)

3. 各センター装置について、上記手順 1 と 2 を繰り返す。(Ⅱ P. 25)

4. センター装置間の接続をする。(Ⅱ P. 25)

リモート参加者インターフェースユニット を使用するとき (遠隔地間会議)

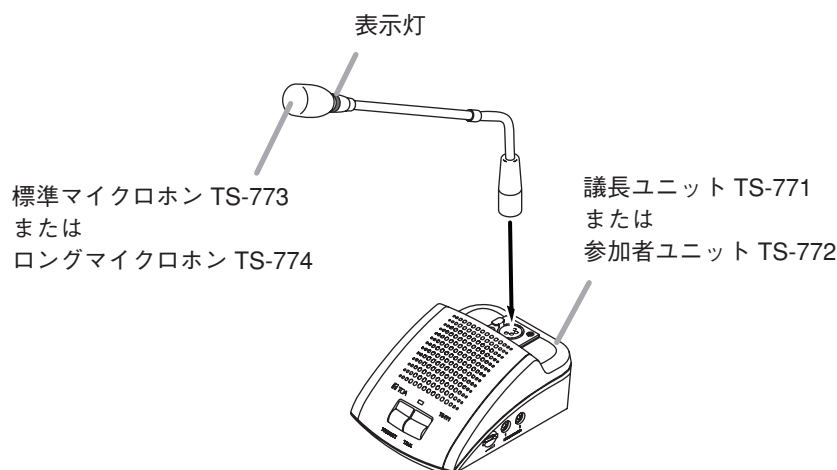
5. 遠隔地の参加者側とパソコンまたは電話機で通話状態にして、音量調節をする。
(Ⅱ P. 26)

■ 基本的なシステムの設置・調節のしかた

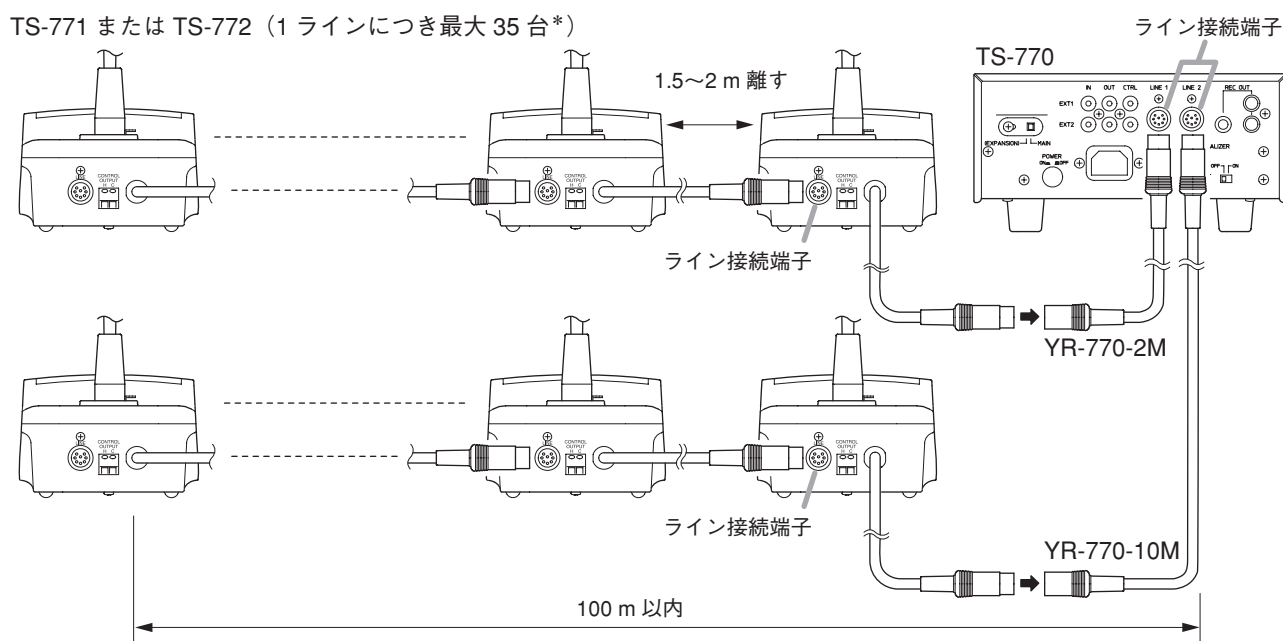
センター装置1台に、議長ユニット、参加者ユニットを接続した基本的なシステムの設置と調節のしかたを説明します。

● センター装置と議長・参加者ユニットを接続する

- 1** マイクロホンを議長ユニット TS-771、参加者ユニット TS-772 に接続する。
標準マイクroホン TS-773 またはロングマイクroホン TS-774 を接続できます。



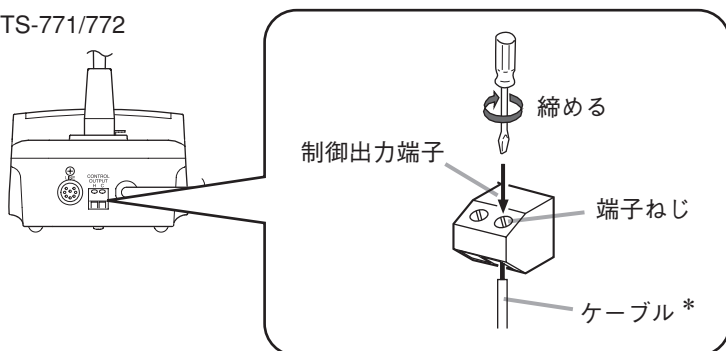
- 2** 議長ユニット TS-771 と参加者ユニット TS-772 をセンター装置 TS-770 に接続する。
会議ユニットの間隔は、1.5～2 m 離して設置してください。
2 m 以上離して設置するときは、延長コード YR-770-2M (2 m) または YR-770-10M (10 m) を使用してください。
センター装置のライン1と2、それぞれに会議ユニットを35台まで接続できます。
センター装置と最終の会議ユニットまでの接続コードの合計は100 m以内にしてください。



* リモート参加者インターフェースユニット TS-775 を使用するとき、TS-775 も含めて1ラインにつき最大35台

- 3** 必要に応じて、議長ユニット TS-771、参加者ユニット TS-772 の制御出力端子に表示灯などを接続する。

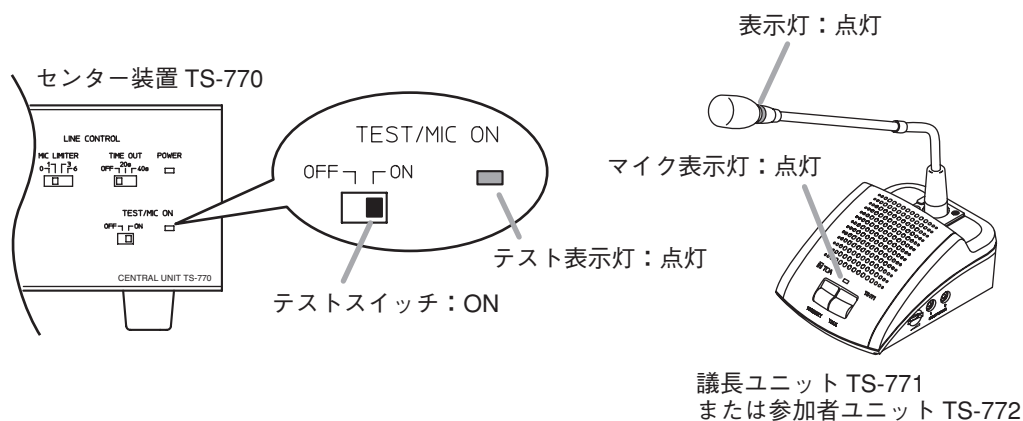
TS-771/772



※ この出力端子は、TS-771/772 が発言中のときにメイクします。

* 導体径：φ0.4～1.3 mm（AWG 16～26）、単線・より線

- 4** センター装置 TS-770 前面のテストスイッチを ON にする。（テストモード）
 テスト表示灯が点灯するとともに、会議ユニットのマイク表示灯とマイクロホンの表示灯が点灯します。
 接続台数が増えると、表示灯が点灯するまで数秒かかることがあります。
 設置した会議ユニットの表示灯がすべて点灯すれば接続確認完了です。
 このとき、点灯しない会議ユニットがあれば、マイクロホンの接続およびセンター装置との接続を確認してください。

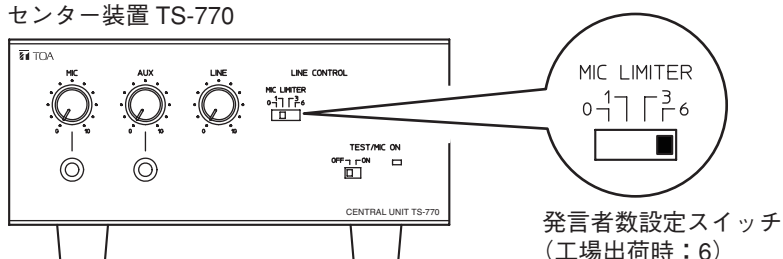


- 5** センター装置 TS-770 前面のテストスイッチを OFF にする。（テストモード解除）
 接続台数が増えると、表示灯が消灯するまで数秒かかることがあります。

● 機能の設定と議長・参加者ユニットの音量調節

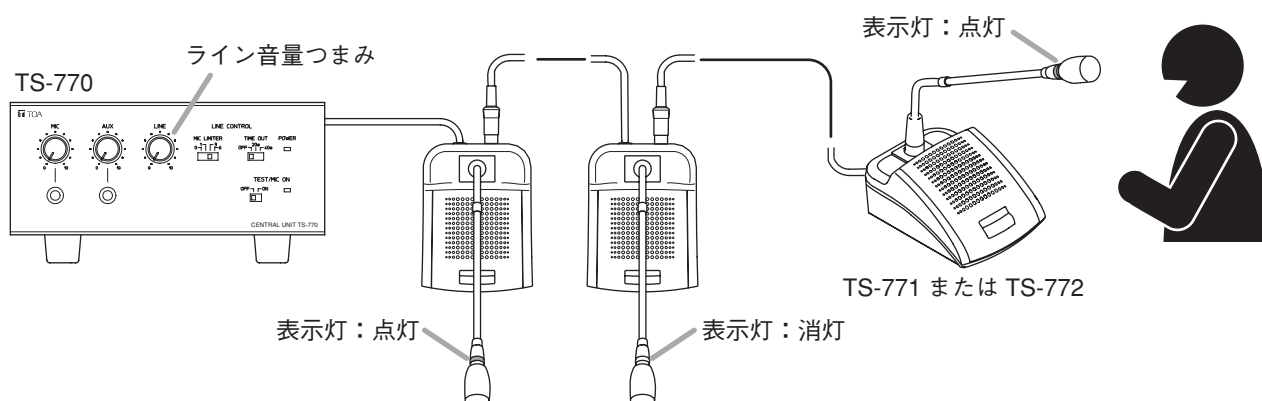
- 6** センター装置 TS-770 前面の発言者数設定スイッチで参加者ユニットの発言者数を設定する。
 詳細は P. 16 をお読みください。

センター装置 TS-770



7 議長・参加者ユニット TS-771/772 の音量を調節する。

議長ユニットと、手順4で設定した数の参加者ユニットの発言キーを押してマイクロホンオンにし、マイクロホンで発言しながら、適切な音量になるよう、センター装置のライン音量つまみで調節します。



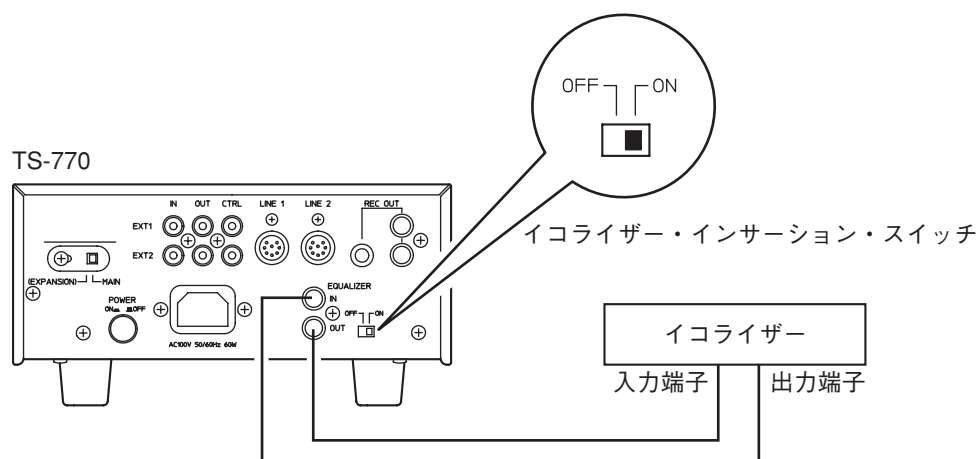
8 発言する議長・参加者ユニット TS-771/772 の、どのマイクロホンから発言しても、ハウリングしないことを確認する。

ハウリングした場合には、会議ユニット間の距離を広げるか、ライン音量を下げ、ハウリングしないようにします。

音量を上げてもハウリングしないようにするためには、イコライザーを使用します。

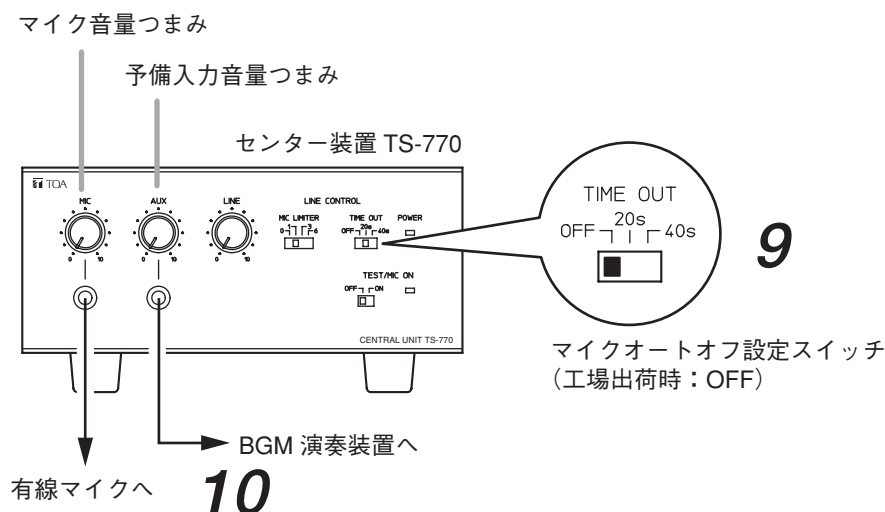
イコライザー・インサージョン出力端子をイコライザーの入力端子に、イコライザー・インサージョン入力端子をイコライザーの出力端子に接続し、イコライザー・インサージョン・スイッチをONにしてください。

これにより、すべての信号がイコライザーにより制御できるようになります。



9 必要に応じて、センター装置 TS-770 前面のマイクオートオフ設定スイッチでマイクオートオフ機能*の設定をする。

* 一定時間発言がないと、自動的にマイクロホンをおフにする機能（P. 17）



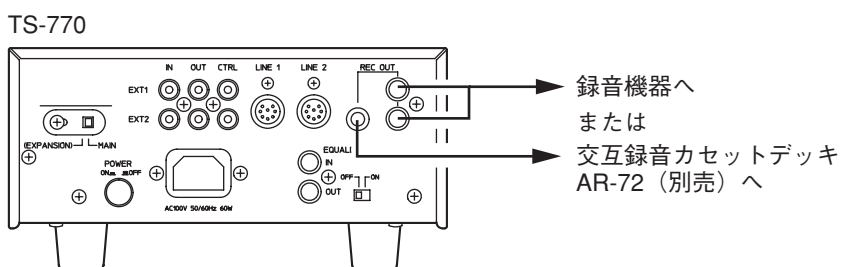
10 有線マイク、BGM 演奏装置を使用する場合は、センター装置 TS-770 に接続し、音量を調節する。

有線マイクはセンター装置前面のマイク入力端子に接続し、マイク音量つまみで適切な音量に調節します。

CD デッキ、カセットデッキなどの BGM 演奏装置は、センター装置前面の予備入力端子に接続し、予備入力音量つまみで適切な音量に調節します。

11 会議の内容を録音する場合は、センター装置 TS-770 の録音出力端子と、録音機器の録音入力端子を接続する。

詳細は P. 18 をお読みください。



センター装置を複数台使用するとき

センター装置を最大3台使用できます。会議ユニットは最大210台接続できます。

ご注意

発言者数の制限およびマイクオートオフ機能を、センター装置ごとに異なる設定で使用することはできません。

1 各センター装置 TS-770 の接続と調節を行う。

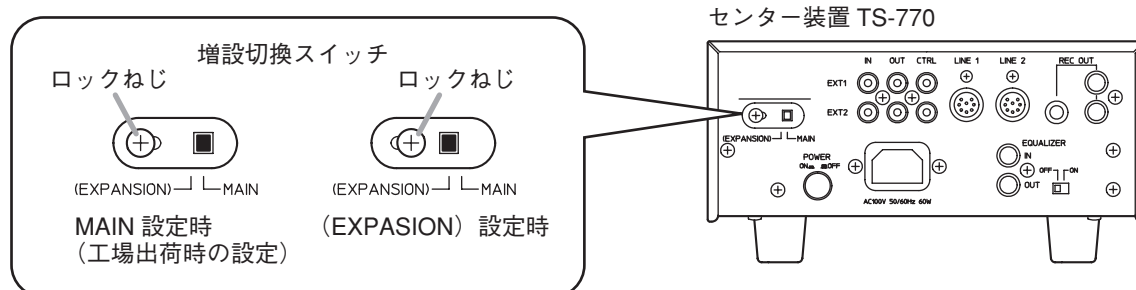
各センター装置について、P. 21～24 の手順1～11を行う。

2 センター装置 TS-770 後面の増設切換スイッチを設定する。

1 台のセンター装置の増設切換スイッチのみ MAIN 側にし、他のセンター装置の増設切換スイッチはすべて EXPANSION 側に切り換えます。

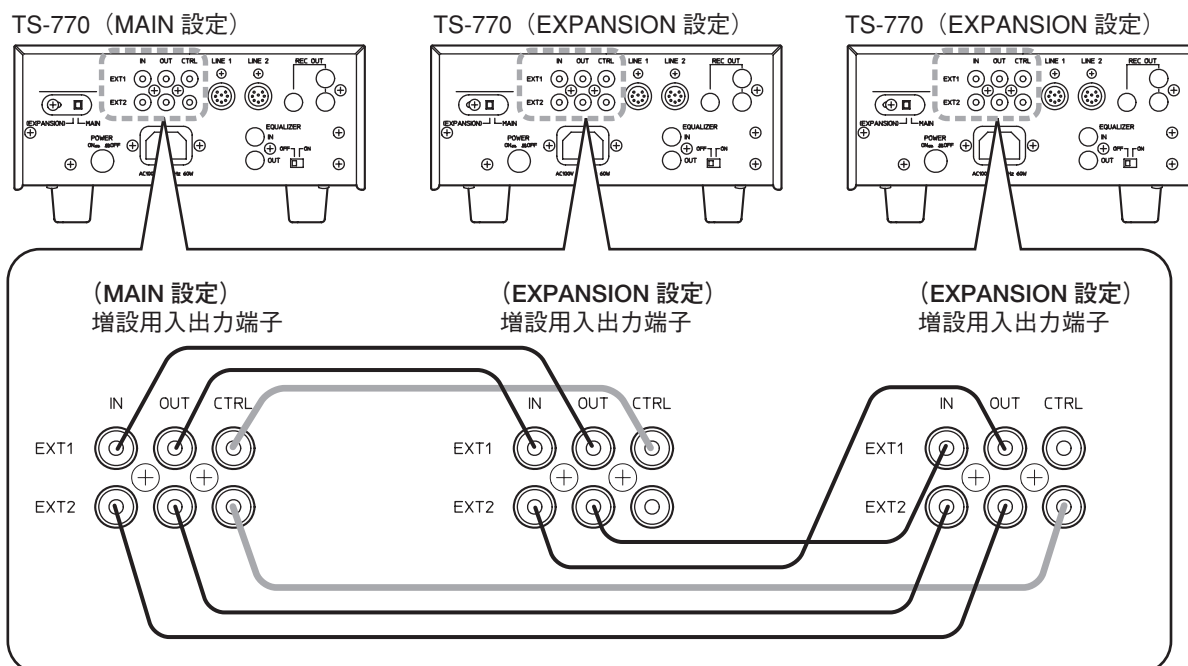
切り換えは、センター装置後面の増設切換スイッチのロックねじをゆるめて行います。

切り換え後は、再度ロックねじを締めます。



3 センター装置 TS-770 間を接続する。

下図のように、増設用入出力端子を相互に接続します。ただし、CTRL 端子については、MAIN 側から EXPANSION 側へ各 1 本を接続します。



ご注意

センター装置間の接続コードは付属していません。別途、用意してください。

4 センター装置 TS-770 の機能を設定する。

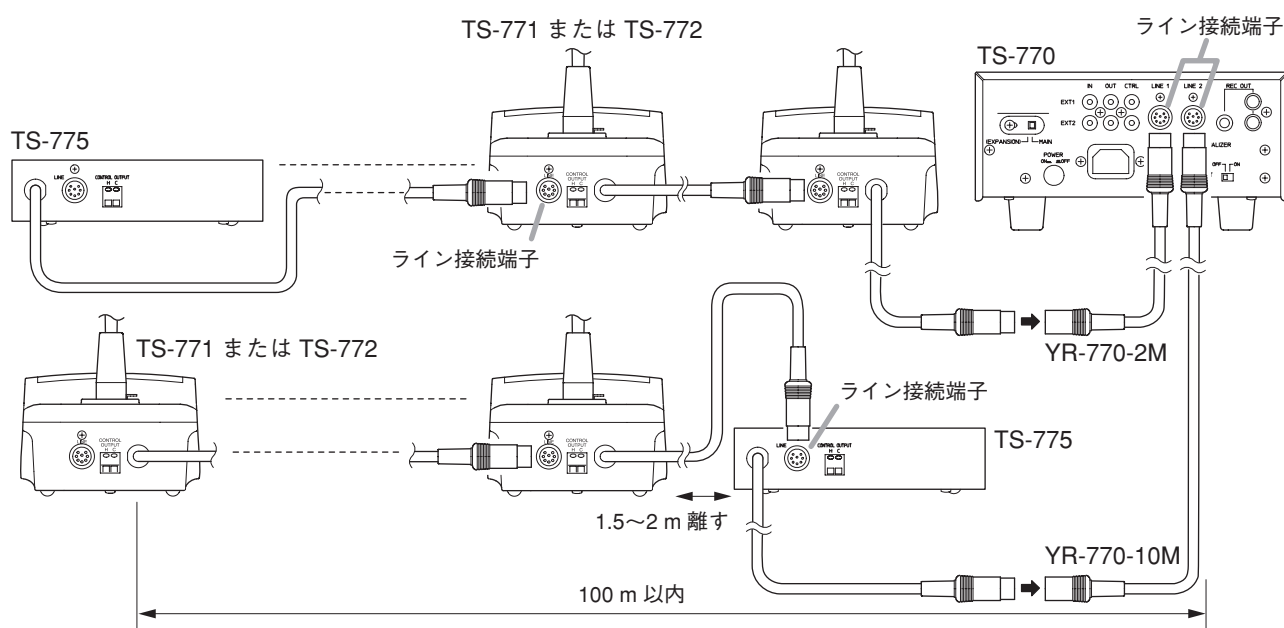
下記のようにしてください。

- 発言者数制限スイッチ
増設切換スイッチを MAIN 側にしたセンター装置の発言者制限スイッチのみ設定してください。
※ 他のスイッチの設定に関係なく、この設定のみ有効となります。
- マイクオートオフ設定スイッチ
すべてのセンター装置の設定を同じにしてください。

遠隔地間会議をするとき

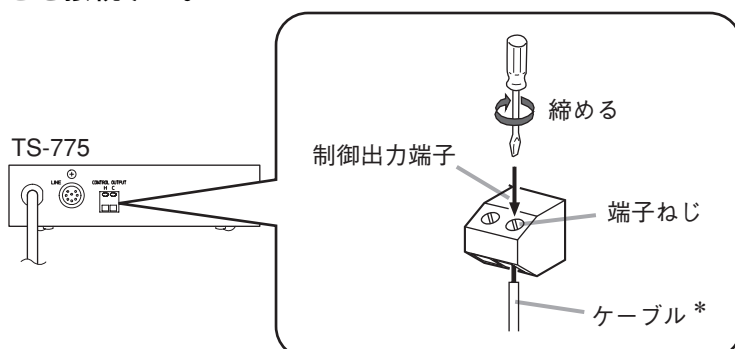
遠隔地間会議をするときは、リモート参加者インターフェースユニット TS-775 を追加し、電話機またはパソコンを使用します。

- 1 センター装置 TS-770 とリモート参加者インターフェースユニット TS-775 を接続する。
接続のしかたは、他の会議ユニットのときと同様です。(P. 21)



※ TS-770 ライン接続端子の 1 ラインにつき、TS-771、TS-772、TS-775 合計で最大 35 台接続できます。

- 2 必要に応じて、リモート参加者インターフェースユニット TS-775 の制御出力端子に表示灯などを接続する。



※ この出力端子は、TS-775 が発言中のときにメイクします。

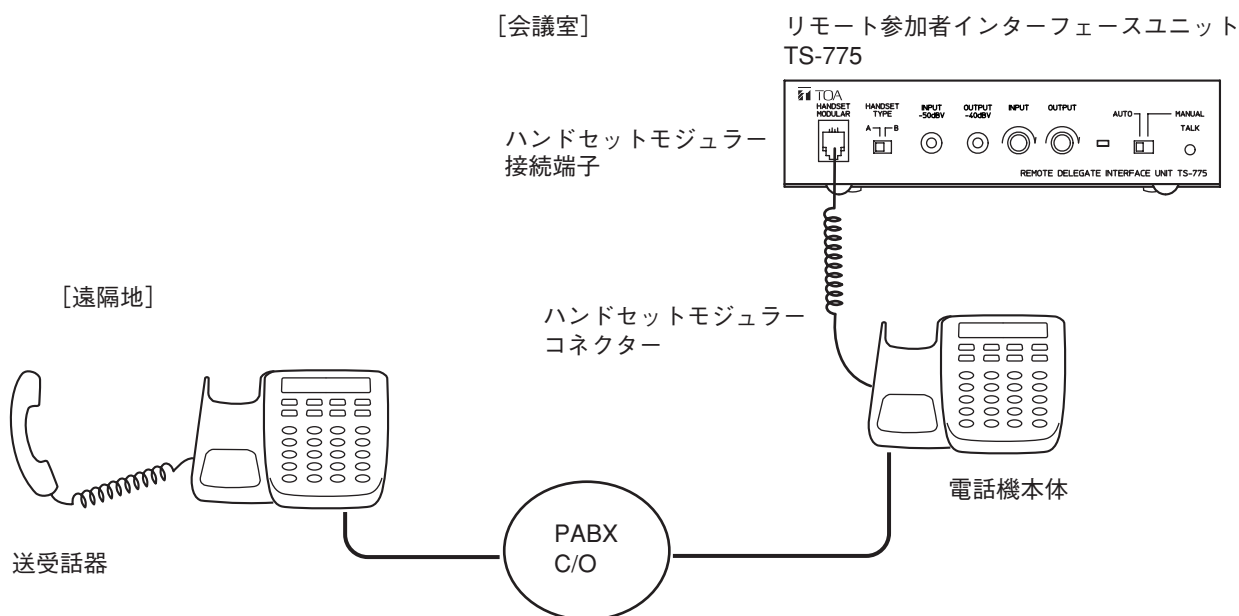
* 導体径：φ0.4~1.3 mm (AWG 16~26)、
単線・より線

3 会議室と遠隔地のパソコンまたは電話機を通話状態にし、会議室のパソコンまたは電話機をリモート参加者インターフェースユニット TS-775 に接続する。

3-1 電話機を利用する場合

モジュラー付きハンドセットの電話機を使用します。

- (1) 電話機間を通話状態にします。
- (2) 電話機のハンドセットモジュラーコードをハンドセットから取り外し、リモート参加者インターフェースユニットに接続します。



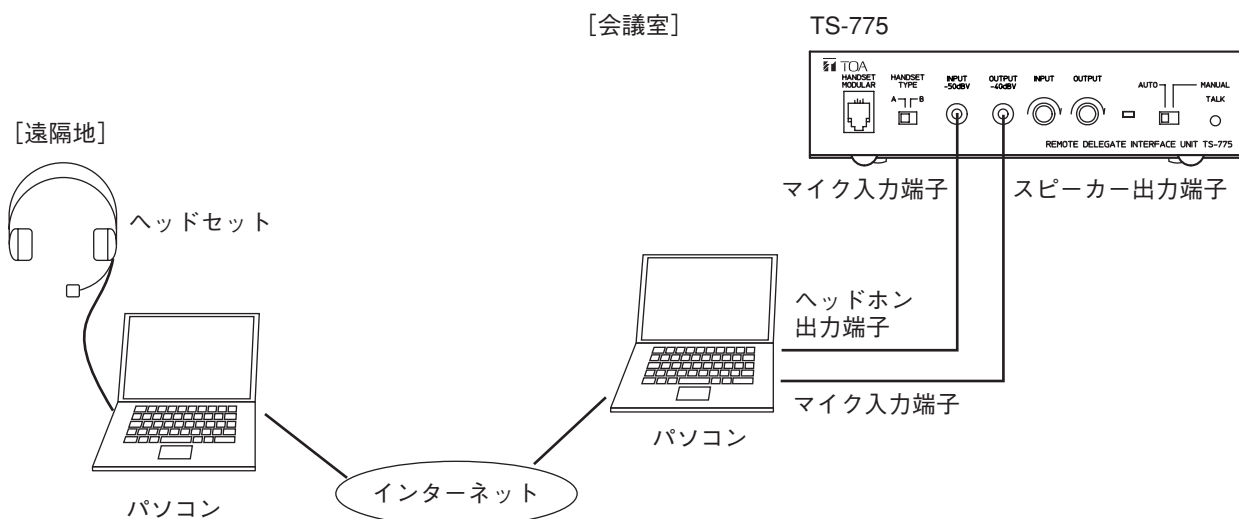
3-2 パソコンのマイク入力、ヘッドホン出力を利用する場合

- (1) Skype*などのIP電話ソフトウェアを利用して、会議室と遠隔地のパソコン間を通話状態にします。
- (2) パソコン間で適正なレベルで通話できるように、パソコンのマイク入力、スピーカー出力の設定をします。
- (3) パソコンのヘッドホン出力端子をリモート参加者インターフェースユニットのマイク入力端子に、リモート参加者インターフェースユニットのスピーカー出力端子をパソコンのマイク入力端子に接続します。

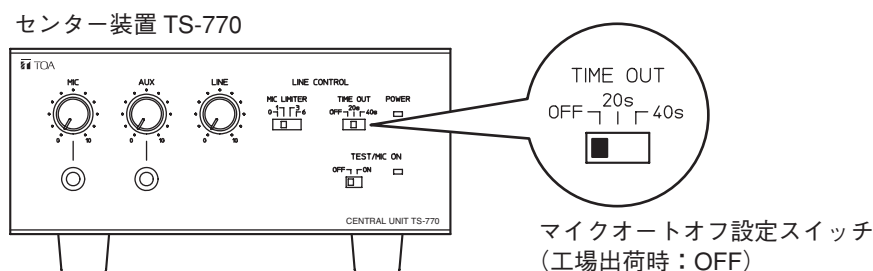
* Skype は Skype Limited の商標です。

Skype とは、インターネット経由で通話可能な無料の IP 電話ソフトウェアです。

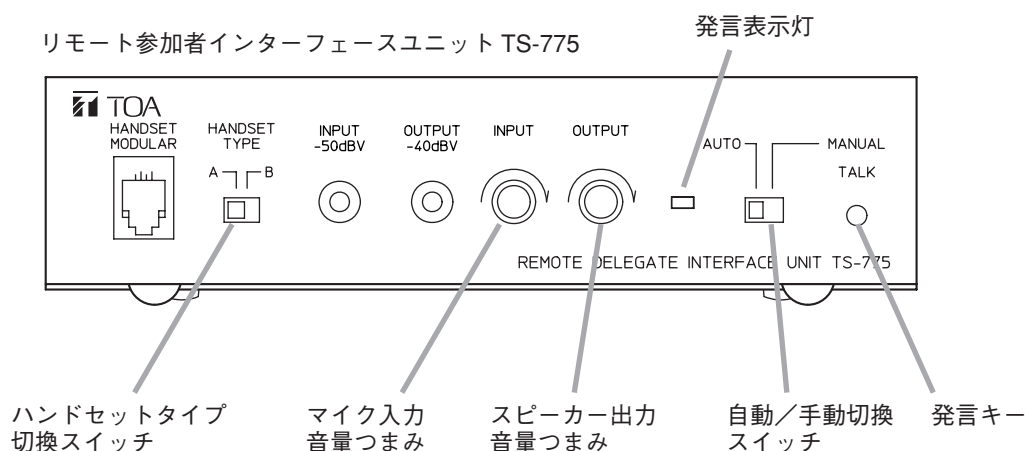
詳細は、<http://www.skype.com/intl/ja/helloagain.html> を参照してください。



4 センター装置のマイクオートオフ設定スイッチを OFF にする。



5 リモート参加者インターフェースユニット TS-775 の自動／手動切換スイッチを MANUAL に設定し、発言解除状態（発言表示灯が消灯）にする。



6 議長ユニット TS-771、参加者ユニット TS-772 の音声相手が相手のパソコンまたは電話機で適正に聞こえるように、スピーカー出力音量つまみを調節する。

ご注意

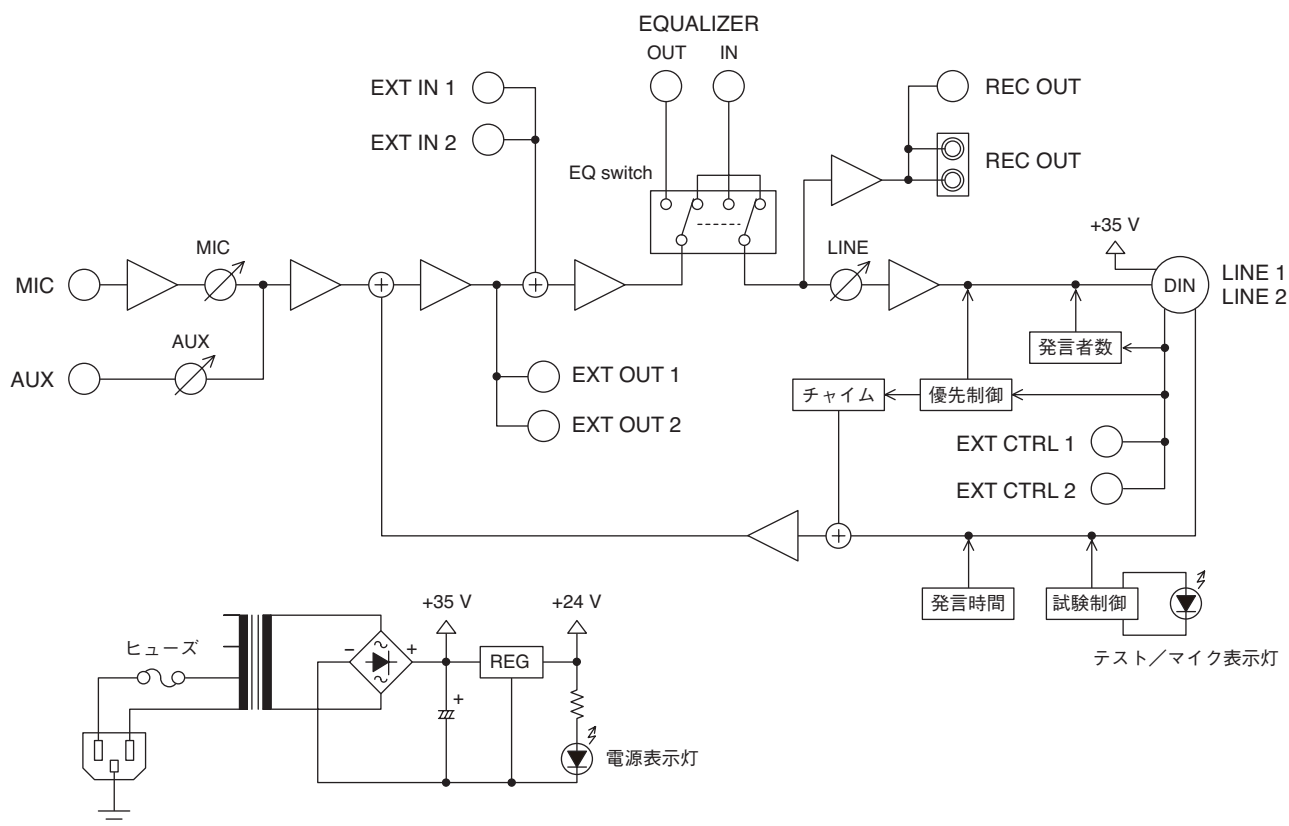
電話機を使用している場合、音声がかんく聞こえないときは、ハンドセットタイプ切換スイッチを切り換えてください。(工場出荷時: A)

7 発言キーを押して発言状態にし、相手の音声議長ユニット TS-771、参加者ユニット TS-772 (マイク表示灯が消灯) から適正に聞こえるようにマイク入力音量つまみを調節する。

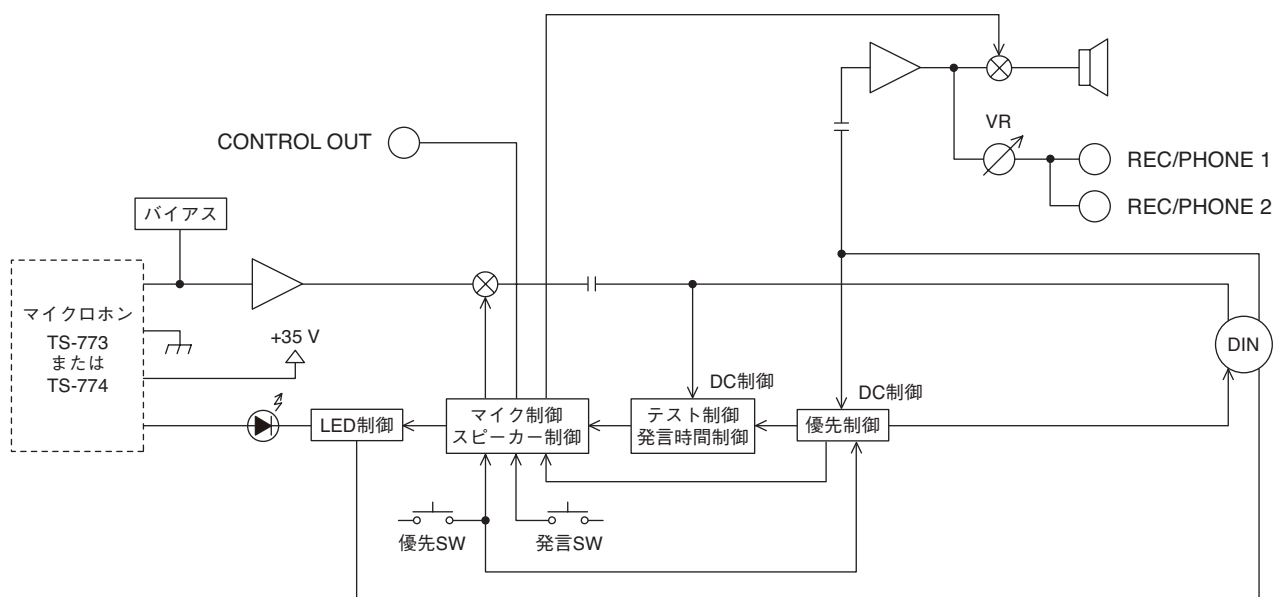
8 リモート参加者インターフェースユニット TS-775 の自動／手動切換スイッチを AUTO に設定にし、送話／受話の切り換えができるようにマイク入力音量つまみを微調整する。

ブロックダイアグラム

■ センター装置 TS-770



■ 議長ユニット TS-771



仕 様

■ センター装置 TS-770

電 源	AC100 V、50/60 Hz
消 費 電 力	60 W（電気用品安全法による）
入 力	マイク : -60 dB*、600 Ω、不平衡、ホーンジャック AUX : -20 dB*、10 k Ω、不平衡、ホーンジャック
出 力	録音 : -20 dB*、10 k Ω、不平衡、ホーンジャック、ピンジャック×2
イコライザー挿入端子	入力: -20 dB*、10 k Ω、ピンジャック 出力: -20 dB*、10 k Ω、ピンジャック
増 設 用 入 出 力	入力: -20 dB*、10 k Ω、不平衡、ピンジャック×2 出力: -20 dB*、10 k Ω、不平衡、ピンジャック×2 制御: 10 k Ω以上、電圧出力、ピンジャック×2
制 御	優先チャイム : TS-771 優先キー操作時に1音チャイム起動 発言者数制限 : TS-772/775のマイク、同時オン可能台数を0、1、3、6に設定可能 マイクオートオフ: 無音時マイクオートオフをOFF、20秒、40秒に設定可能
ユニット接続可能台数	70台（1ライン当たり最大35台）、最大210台（センター装置3台接続時）
使 用 温 度 範 囲	0～+40℃
使 用 湿 度 範 囲	90% RH以下（ただし結露のないこと）
仕 上 げ	プレコート鋼板、黒（マンセルN1.0近似色）、3分艶
寸 法	210（幅）×107.1（高さ）×316（奥行）mm
質 量	4 kg

* 0 dB = 1 V

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

電源コード（2 m） 1

■ 議長ユニット TS-771、参加者ユニット TS-772

電 源	DC35 V、30 mA以下（センター装置 TS-770 から供給）
出 力	ヘッドホン／録音: 32 Ω（ヘッドホン）／10 k Ω、-20 dB*（録音） 不平衡、ミニジャック（音量調節器付き） 内蔵スピーカー : 130 Ω、200 mW 接点出力 : DC24 V、最大 50mA
制 御	発言 : 発言キーによるマイク、スピーカーのオン／オフ制御 優先（TS-771のみ）: 優先キーによるマイク、スピーカーのオン／オフ、 他マイクのオフ、1音チャイムの起動
使 用 温 度 範 囲	0～+40℃
使 用 湿 度 範 囲	90% RH以下（ただし結露のないこと）
仕 上 げ	ケース: ABS樹脂、黒（マンセルN1.0近似色） パネル: ABS樹脂、グレーメタリック（マンセル10BG5/1近似色）、半艶、塗装
寸 法	114.5（幅）×78.4（高さ）×152.9（奥行）mm
質 量	780 g

* 0 dB = 1 V

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

■ 標準マイクロホン TS-773、ロングマイクロホン TS-774

品 番	TS-773	TS-774
形 式	エレクトレットコンデンサマイクロホン	
指 向 性 パ タ ー ン	単一指向性	
定格インピーダンス	1.8 k Ω	
定格感度レベル	-37 dB (1 kHz、0 dB = 1 V/Pa)	
表 示 L E D	発言中 (リングタイプ)	
周 波 数 特 性	100 ~ 13,000 Hz	
出 力 コ ネ ク タ ー	XLR-4-32 相当品	
仕 上 げ	グーズネック部：ステンレス (SUS301)、黒 (マンセル N1.0 近似色) その他 : ABS 樹脂、黒 (マンセル N1.0 近似色)	
全 長	368 mm	518 mm
質 量	90 g	105 g
適合ユニット (別売)	議長ユニット TS-771、参加者ユニット TS-772	

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

■ リモート参加者インターフェースユニット TS-775

電 源	DC35 V、30 mA 以下 (センター装置 TS-770 から供給)
入 力	-50 dB *、200 Ω 、平衡、ミニジャック、音量調節器付き
出 力	-40 dB *、22 Ω 、平衡、ミニジャック、音量調節器付き
通 話 モ ー ド	AUTO : 音声スイッチによる自動切り換え MANUAL : 発言キーのオン/オフ
使 用 温 度 範 囲	0 ~ + 40℃
使 用 湿 度 範 囲	90 % RH 以下 (ただし結露のないこと)
仕 上 げ	プレコート鋼板、黒 (マンセル N1.0 近似色)
寸 法	160 (幅) × 41.8 (高さ) × 100 (奥行) mm (突起部を除く)
質 量	700 g

* 0 dB = 1 V

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

■ 延長コード 2 m YR-770-2M 延長コード 10 m YR-770-10M

品 番	YR-770-2M	YR-770-10M
コ ネ ク タ ー	DIN ソケット (8 P、本体側)、DIN プラグ (8 P、コード側)	
長 さ	2 m	10 m

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

TOA お客様相談センター	フリーダイヤル 0120-108-117	商品の価格・在庫・修理などのお問い合わせ、および カタログのご請求については、取り扱い店または最寄 りの営業所へお申し付けください。最寄りの営業所に ついては、TOA ホームページをご確認ください。
商品の内容や組み合わせ、設置方法などにつ いての技術的なお問い合わせにお応えします。	ナビダイヤル 0570-064-475 (有料)	
受付時間 9 : 00 ~ 17 : 00 (土日、祝日除く)	FAX 0570-017-108 (有料) ※ PHS、IP 電話からはつながりません。	
当社は、お客様から提供された個人情報をお問い合わせ対応または修理対応の目的に利用いたします。また、修理委託目的で委託先業者へ提供することがあります。個人情報の取り扱いに関する方針については、TOA ホームページをご覧ください。		

TOA ホームページ <http://www.toa.co.jp/>

TOA 株式会社

133-22-105-70